

製品名: Neu (リン酸化 Tyr1112) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05075

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	180kDa

抗原情報

遺伝子名	ERBB2 ERBB2; HER2; MLN19; NEU; NGL; Receptor tyrosine-protein kinase erbB-2; Metastatic lymph
別名	node gene 19 protein; MLN 19; Proto-oncogene Neu; Proto-oncogene c-ErbB-2; Tyrosine kinase-type cell surface receptor HER2; p185erbB2; CD antigen CD340
遺伝子 ID	2064.0
SwissProt ID	P04626
免疫原	抗血清は、ヒト HER2 由来の Tyr1112 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 1081-1130

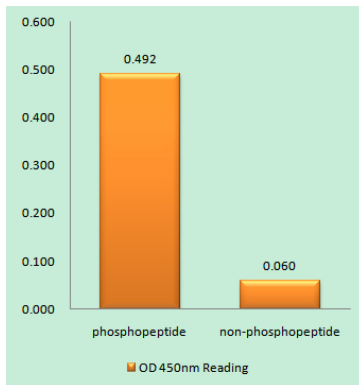
背景

この遺伝子は、受容体型チロシンキナーゼである上皮成長因子 (EGF) 受容体ファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質は独自のリガンド結合ドメインを持たないため、成長因子と結合できません。しかし、リガンド結合型 EGF 受容体ファミリーの他のメンバーと強固に結合してヘテロ二量体を形成し、リガンド結合を安定化し、マイトジェン活性化プロテインキナーゼやホスファチジルイノシトール 3 キナーゼなどの下流シグナル伝達経路のキナーゼ媒介活性化を促進します。アイソフォーム a のアミノ酸位置 654 と 655 (アイソフォーム b の位置 624 と 625) における対立遺伝子変異が報告されており、最も一般的な対立遺伝子である Ile654/Ile655 をここに示す。この遺伝子の増幅および/または過剰発現は、乳がんや卵巣腫瘍を含む多くの癌で報告されている。選択的スプライシングにより、いくつかの追加の転写バリエーションが生成され、そのいくつかは触媒活性をエンコードします: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシリン酸。疾患: ERBB2 の欠陥は、家族性脳神経腫瘍 [MIM:137800] と関連しています。多形性神経腫瘍とも呼ばれます。神経腫瘍は、グリア細胞由来の中樞神経系の腫瘍であり、星状細胞腫、多形性神経芽腫、乏突起腫瘍、および上衣腫で構成されます。疾患: ERBB2 の欠陥は、胃癌 [MIM:137215] と関連しています。遺伝性家族性びまん性胃癌 (HDGC) とも呼ばれます。疾患: ERBB2 の欠陥は肺癌 [MIM:211980] と関連しています。肺腺癌とも呼ばれる。疾患: ERBB2 の欠陥は卵巣癌 [MIM:167000] と関連している。卵巣癌は婦人科悪性腫瘍による死亡の主な原因である。進行期に腹腔内への局所領域播種を呈し、まれに内臓転移を呈するのが特徴です。これらの典型的な特徴は、転帰の主要な決定因子である疾患の生物学的特性と関連しています。機能: ニューレグリン受容体複合体の必須成分ですが、ニューレグリンは単独では相互作用しません。GP30 はこの受容体の潜在的なリガンドです。EGF、TGF- α 、アンフィレグリンによって活性化されません。オンライン情報: ERBB2 エントリ、多型: 位置 654 と 655 のバリエーションにより、4 つの対立遺伝子が存在します。対立遺伝子 B1 (Ile-654/Ile-655) の頻度は 0.782、対立遺伝子 B2 (Ile-654/Val-655) の頻度は 0.206、対立遺伝子 B3 (Val-654/Val-655) の頻度は 0.012 です。PTM: リガンド結合により、チロシン残基のリン酸化が促進されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンタンパク質キナーゼファミリー。EGF 受容体サブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインが含まれます。サブユニット: 他の ERBB 受容体のそれぞれとヘテロ二量体を形成する可能性があります。PRKCABP および PLXNB1 と相互作用する。EGFR および PIK3C2A または PIK3C2B との複合体を形成する。Tyr-1196 がリン酸化されると PIK3C2B と相互作用する可能性がある。Tyr-1248 がリン酸化されると MEMO と相互作用する。MUC1 と相互作用する。乳がん細胞株におけるヘレグリン (HRG) 刺激は、MUC1 と γ -カテニンの結合を誘導する。

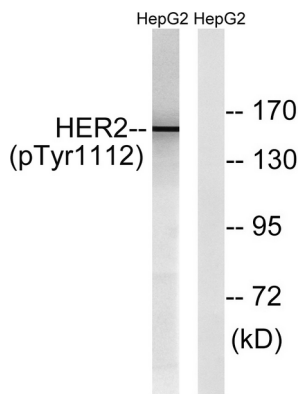
研究分野

ErbB_HER; カルシウム; 接着斑; 接着結合; がんの経路; 膵臓がん; 子宮内膜がん; 前立腺がん; 膀胱がん; 非小細胞肺癌;

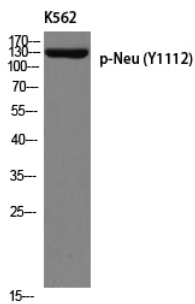
画像データ



HER2 (リン酸化 Tyr1112) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



PMA 125 ng/ml 20分処理した HepG2 細胞ライセートの HER2 (リン酸化 Tyr1112) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロックされている。



p-Neu (Y1112) 抗体を用いた K562 のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈した。